

投稿原稿のカテゴリー名変更について

この度、学会誌委員会において、学会誌『日本語教育』への投稿原稿のカテゴリー名変更が決定しましたので、お知らせいたします。

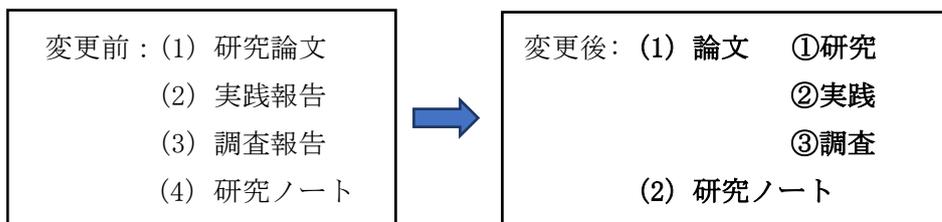
投稿原稿のカテゴリーは4種類あり、その名前は、99号（1998年12月発行）より以下の通りでした。

(1) 研究論文 (2) 実践報告 (3) 調査報告 (4) 研究ノート

このうち、(1)～(3)は論文の分量も同一に規定され、「論文投稿FAQ」にも示されているとおり、本学会では同等の価値がある研究成果として扱っています。それは、本学会の会員の多くは、日本語教育の現場で日々教育実践に取り組んでいる日本語教師であり、教育現場への応用に直結する実践や調査もまた、会員どうしの情報共有や相互啓発をうながす立派な研究だと捉えているからです。

しかし、「論文」と「報告」という名称の違いから、本学会の会員以外の方から上記(2)、(3)が(1)より価値が低いものであると誤って捉えられたり、本学会の会員からも双方にレベルの差はあるのかという問い合わせを受けたりすることが、実際には、最近に至るまでありました。

そこで、本学会での投稿原稿のカテゴリーの内容について、より正確に理解していただき、名称によって誤った印象を持たれる危険性を回避するために、下記の通り、大きく「(1)論文」「(2)研究ノート」の二つのカテゴリーにし、「(1)論文」の下位カテゴリーは「①研究」「②実践」「③調査」としました。『日本語教育』187号（8月20日新規投稿申込締切）より名称を変更いたします。



これらは、名称を変更するだけであり、その内容や価値・レベルについてはまったく変更はありません。各カテゴリーの原稿に求められる内容や査読において重視される点については、[『日本語教育』投稿要領](#)をご参照ください。

「①研究」「②実践」「③調査」の3種類の「論文」と「研究ノート」というカテゴリーにより、これまで以上にそれぞれの特性を理解していただき、今後も日本語教育の現場での教育や、日本語教育関連の学問領域に資する実践や調査、研究が活発に行われることを期待しております。

会員の皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

2023年4月

学会誌委員会 委員長 荻原稚佳子